



**Data**

監督・脚本：吉田恵輔

出演：／窪田正孝／新井浩文／江上敬子（ニッチェ）／笈美和子／阿部亮平／木村和貴／後藤剛範／土屋美穂子／健太郎／竹内愛紗／小林勝也／角替和枝

### ■■■ショートコメント■■■

◆兄弟は他人の始まり。弁護士として40年以上遺産相続事件を処理していると、親子関係の争いが深刻なら、兄弟姉妹の争いはもっと深刻。そんな人間の性（さが）を痛感することが多い。かく言う私も男の二人兄弟だが、松山の実家で過ごした中学・高校時代はともかく、大学に入って違う世界に至り、卒業後互いに結婚して子供が生まれ、さらに別の世界を生きるようになってくると・・・？

本作中盤に回想風に描かれる、兄卓司（新井浩文）と弟和成（窪田正孝）の金山兄弟、姉由利亜（江上敬子）と妹真子（笈美和子）の幾野姉妹の子供時代や中学高校時代を見ると、それぞれ仲の良い兄弟姉妹だったが、さて今は・・・？

◆本作は吉田恵輔が脚本を書き、自ら監督したオリジナル企画であるうえ、『犬猿』というタイトルで一組ずつの兄弟姉妹を描いたから、そのキャラの設定が極端になったのは仕方ない。映画としての面白さがそれによって発揮されたわけだが、まずは兄弟姉妹のここまで極端な違いに注目！導入部でみせる、姉妹のあまりに大きな違い、その対照ぶりに圧倒されるとともに、苦笑させられるはずだ。

もっとも、男の私には金山兄弟の対比は極めてわかりやすかったが、和成を巡る恋の「さや当て」を繰り返る微妙な女ゴコロの変化はついて行くのが精いっぱい。和成からの誕生日のプレゼントに喜び狂う姉由利亜の生態（？）や、太っちょの姉が絶対着れない普通サイズの服をプレゼントする妹の真子の意地悪な気持ちは、ちょっと理解不能・・・？

◆本作は典型的なアイデア勝負のワンイシュー映画。したがって、2人の兄弟、2人の姉妹を演ずる4人の俳優のキャラとその演技が作品の生命線になるのは当然だが、その点で本作の出来はピカイチ。しかし、早くからその論点と面白みが見えてくるだけに、くり返しくり返し、これでもかこれでもかと似たようなネタが続く犬猿ぶりに、少し飽きてくる感もある。丁寧と言えはたしかに丁寧だが、兄弟の間、姉妹の間でここまで壮絶な愛憎劇

が繰り上げられることにビックリ。

そして、たまたま時を同じくして、一方では抗争に巻き込まれた卓司が首を刺されて動けなくなり、他方では、父親の看病をしていた由利亜が自宅の廊下で倒れ込むと・・・？卓司を発見した和成は、あの時願っていたようにこのままヤクザの卓司がいなくなれば？という悪魔の声に一瞬つき従ったが、さてその後は・・・？他方、真子の方は倒れた姉を見てただちに119番通報したが、さてそのホントの腹の中は・・・？

◆株は上がれば下がるし、下がれば上がる。ヨメと同じように(?)、また兄弟姉妹の仲もいくら犬猿であっても、あんな事件が起これば兄弟姉妹が互いに心を開きあうことがある。しかし所詮それは長く続かないはずだ。本作終盤で起きた感動的なシークエンス(?)で全員が大団円となれば万々歳だが、人間は、そして兄弟姉妹はそうはいかないもの。しかして一転、本作ラストでは再び卓司と和成、由利亜と真子の口論が開始されるが、さて、そこから新たに始まる犬猿のバトルとは・・・？

2018(平成30)年2月28日記